

洋光台まちづくり協議会より

タウンニュース (金沢区・磯子区版/ 2020.11.26号) に 洋光台 50 周年記事が 掲載されました



団地の集会所 OPEN RING (上・写真 太田拓実と昔の洋光台駅前



祝 50周年

進化し続ける洋光台

半世紀の歴史 記念式典は来年開催

1970年3月17日、JR根岸線磯子〜洋光台駅間が延伸開業し、6月から公団住宅の入居が開始された。今年洋光台の街が生まれて50年の節目の年。本紙では歴史を振り返るとともに進化し続ける街を特集する。なお、コロナ禍により周年記念式典は来年に開催する予定だ。

「団地の誕生とともに、全国各地から住民が集まり、親子連れで賑わい、活気があった」と洋光台連合自治町内会会長、洋光台まちづくり協議会会長の三上勇夫さんは、

洋光台の開発を進めてきた独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）は洋光台まちづくり協議会や横浜などと連携しながら、2015年に団地の再生を図る「団地の未来プロジェクト」を立ち上げ、世界的建築家の隈研吾さんとクリエイティブディレクターの佐藤可士和さん監修のもと、継続的に団地の価値を高める取り組みを進めてきた。

団地の集会所、完成 このたび、洋光台北団地エリアの新たな拠点として「団地の集会所 OPEN RING」が誕生。地形を生かした建物構成で、「集まって住む魅力」を実現した。併設する「団地のカフェ」

（よっしーのお芋屋さんの吉川ゆうじさんは「地域の皆さまや各地からお越しいただいた方が多いです」と話す。今後、様々なワークショップや広場を活用した各種イベントの実施を通じ、洋光台北エリアの新たなコミュニケーション拠点として期待される。

また、集会所に隣接する屋外広場・住棟ファサードも大規模リニューアル。オープンスペースには芝をほり、木製の家具を設置。明るく開放的な空間を目指した。ディレクターの佐藤さんは「団地ならではの『集住の価値』を再発見し皆さんが心地よく日々過ごせる場所となつてほしい」とコメントした。

三上さん シン・ゴジラのロケ地になったのが一番の思い出。また、防犯活動では内閣総理大臣賞を受賞したこともうれしい出来事

遠藤さん 地区社協でバザーを開催し収益で一人暮らし高齢者の食事を開催するなど活動全てが街全体で行っている素敵な街

宮久保さん 子供会は多い時で400人ほど参加していた。団地の中で運動会を開催していたのは思い出の一つ

溝口さん 50年前の当時は山ばかりで街がこうに発展するとは想像もできなかった

森野さん 子どもたちを大切にしていながら、高齢者を含め、2・3・4世代融和を考えたまちづくりをこれから考えていきたい

小島さん 活動が活発。街に活気がある。洋光台独自の体操「洋光台フィットネス」も特徴の一つ。

洋光台まちづくり協議会・洋光台連合自治町内会などの代表者に聞きました



魅力ある街・洋光台の50年

座談会 参加者

三上勇夫さん(洋光台連合自治町内会(以下連町会)会長、洋光台まちづくり協議会(以下まち協)会長)、松浦照朝さん(連町会相談役、まち協副会長)、遠藤洋子さん(洋光台地区社会福祉協議会(以下地区社協)相談役、まち協委員)、武内喜久夫さん(連町会副会長、まち協委員)、宮久保重徳さん(連町会副会長、まち協副会長)、難波江周郎さん(連町会副会長、まち協委員)、溝口早苗さん(地区社協会長、まち協副会長)、伊藤富男さん(連町会会計長、まち協住環境整備部会長)、森野勇さん(連町会事務局長、まち協事務局長)、北村健一郎さん(地区スポーツ推進員協議会会長)、小島順さん(洋光台地域ケアプラザ所長)、伊藤玉恵さん(まちまど担当)、青山亜季さん(同)

松浦さん 全国的な大きな団地の再生で洋光台が誕生し全国から住民が集まってきた

武内さん 団地の入居者が増え始めると同時に児童も増えた。大臣が視察に来て、多くの取材陣が集まり全国的にも注目度が高かった

難波江さん 地域全体にまとまりがあり、一体となって動けるところがいいところ

伊藤さん 活動に参加し6、7年になるが、イベントが多いのが魅力。ポテンシャルがある街

北村さん 1200人以上が参加する健民祭は洋光台の特徴の一つ。各地区のまとまりを感じる

伊藤さん 歩行者通行帯に洋光台方式が取り入れられ、そういった点も住みやすさにつながっていると思う

青山さん 年配の方がとてもウエルカム。街をよくしているとうと活動してきたことが50年続いているのかなど感じている